

「江南区生活交通改善プラン」改定案

〔計画期間は令和2年度～4年度の3年間〕

※「将来像」及び「基本方針」は現プランを継続
「取り組みの方向性」及び「課題」は第1回会議で検討

将来像

誰もがいきいきと快適に生活できるまちを目指し、それが可能となる生活交通体系の実現に向けて、区バス・住民バス、路線バス、タクシーのほか、自家用車によるパークアンドライド等あらゆる手段により、**区民が利便性の向上を実感でき、身近に感じられる公共交通**を目指します。

基本方針	取り組みの方向性	課題	具体的な交通施策
<p>【基本方針】 ①公共交通空白・不便地域の解消</p> <p>各地域の実情に即した移動手段の実現に向けて、新たな住民バスの創出や既存住民バス運営の安定化を進めることで、公共交通空白・不便地域の解消を図ります。</p>	<p>ア 公共交通空白・不便地域において地域の移動ニーズや需要に応じた移動手段を検討、実践する</p>	<p>交通不便地域を走る住民バスは、廃止路線を引き継ぐ形で運行されており、ニーズと合致せず、利用しにくい</p> <p>人口減少が顕著な地域では、定時定路線型を維持することが困難</p> <p>住民バスには市の支援が必要</p>	<p>◆アンケート等によるニーズ調査や分析 ◆多様な運行手段の検討・実践（デマンド型交通等）</p> <p>◆地域と民間事業者との協議 ◆スクールバス等目的バスとの連携の検討</p> <p>◆組織の立ち上げ支援や補助支援の継続</p>
<p>【基本方針】 ②既存公共交通の更なる利便性向上</p> <p>区民が区内外に円滑に移動できるよう、また当区への来訪者にとっても移動しやすい環境となるよう、区バス・住民バスやタクシー事業等が有機的に連動することで利便性の向上を図ります。</p>	<p>ア 区バス・住民バスをはじめ、公共交通の利便性が向上するよう交通事業者とともに運行内容や乗換拠点を検討・整備し、公共交通の充実を図る</p> <p>イ 公共交通の利便性を向上させる環境整備や周知を行うとともにバリアフリー化を推進する</p>	<p>乗換拠点での乗換時の負担を軽減するために、各路線バス同士の連携が必要</p> <p>区民へのシニア半割やパークアンドライド等の制度の周知が不足している</p>	<p>◆区内公共交通の利便性向上のための交通事業者との協議や取り組みの実施 ◆鉄道・バス・タクシー・マイカー等の接続環境向上を含めた乗換拠点の検討・整備 ◆区全体の公共交通充実に向けた区バス・住民バスのルート、ダイヤの見直し ◆区バス・住民バス共通回数券の検討</p> <p>◆区バスにノンステップバス導入 ◆区役所だよりやSNS等を活用した情報提供</p>
<p>【基本方針】 ③公共交通をみんなで支える意識づくり</p> <p>地域で築いてきた公共交通を、地域全体で守り、育てていくため、意見交換等の場を積極的に設け、区民や公共交通関係者同士の連携強化を図り、地域の公共交通に対する意識を高めます。</p>	<p>ア 交通事業者や地域団体との意見交換の場を設け、相互の理解、連携強化に努める</p> <p>イ 区民の公共交通に対する意識の向上を図るため、地域や学校を巻き込んだ周知啓発を行う</p> <p>ウ 企業や施設等と連携した公共交通利用促進に向けた活動を推進する</p>	<p>乗換時の負担を軽減する等より使いやすい公共交通の実現に向けた方策について、引き続き関係者同士が連携し、取り組むことが必要</p> <p>自家用車への依存度が高く、区民の公共交通に関する意識がまだ低い。</p>	<p>◆意見交換の開催 ◆区民の公共交通に対する意識向上に向けた取り組みの検討</p> <p>◆地域や学校への周知・啓発活動 ◆各企業や施設における公共交通利用促進に向けた活動の推進 ◆地域と民間事業者との協議</p>

令和元年度第2回江南区地域公共交通検討会議 会議概要

日 時	令和元年 12 月 2 日 (月) 午後 3 時～午後 4 時	会 場	江南区福祉センター 2 階多目的ルーム
出席者 (敬称略)	<p>【委員等】 石崎覚、小野正博、塚原洋子、豊岡克、荒井春男、杉本克己、田村次、乙川良太、阿部大志、三田啓祐、長谷部一裕、塩原隆太郎、佐々木紀彦、比企博明、西山富也、丸田喜之、藤崎三七雄 (以上 17 人)</p> <p>【事務局】江南区地域総務課係長・同課副主査 (以上 2 人)</p>		
傍聴者	0 人		
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第、出席予定者名簿、座席表 ・ 「江南区生活交通改善プラン」改定案 ・ 「江南区生活交通改善プラン」完成イメージ ・ 江南区の公共交通 (将来のイメージ) ・ 基本方針と成果指標 ・ 第 1 回江南区公共交通検討会議 会議概要 		
議事	<p>○「<u>江南区生活交通改善プラン</u>」改定案について 資料に基づき説明、意見交換を行った。</p> <p>(両川地域バス運営委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからのプランは 3 年間ということだが、よりスピードアップするということか？ <p>⇒市の上位計画であるにいがた未来ビジョンや区ビジョンまちづくり計画が 3 年後 (2023 年) に終わり、新しい計画が策定される。公共交通については、区のまちづくりと連動していく必要があることから、新しいプランも上位計画が終了するタイミングに合わせて 3 年間の計画になっている。(事務局)</p> <p>(横バス協議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空白域と言われているところがあるが、自治会の方から声が上がってこないと公共交通は充実しないと感じている。そういった空白域の地区に区役所がアンケートやニーズ調査をしようと思う。 <p>⇒アンケート調査については、行政が主導で行う部分もある。昨年から中学校区ごとに人口減少対策のワークショップを開催している。すでに両川地域と大江山地域で行い、「公共交通」が課題として認識され、大江山地域では自主的にアンケート調査を行った。地域に公共交通が必要かということも含め地域が主体になってもらうことも必要と思う。(事務局)</p> <p>(フィールド観光)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両川と大江山で、社会実験を手伝ったが 1 年で終了となった。大江山では 1 年経つ頃ようやく地元の人達と意思疎通ができたが、収支率が悪いので打ち切りとなり悔しい思いをした。もっと地元の人達との話し合いをしていれば良かったと思う。両川の方は、新潟交道路線バスも走っているのでも新潟交通ともよく話し合っていくことでよくなってほしいと思っている。 <p>⇒この 5 年間で社会実験をしてきた地域では、住民の皆さんの意向等をはっきりとしないので進めたところがあり、それは区としても反省点だと感じている。特に人口が少なくなっている地域ではどのような交通体系が必要かを住民の皆さんと調整して進めないと、市としてもそれに補助金を出すのである程度の利用が必要。どのような形が良いのかを地域と一緒に進めていきたい。(事務局)</p> <p>⇒前回の会議が終わった後に地域の検討会を行った。この少子高齢化の環境では、路線バスは難しいと感じている。高齢者の通院と買い物など最低限の生活交通の確保が必要だろう</p>		

という結論になった。地域の個人タクシーの活用も検討している。(両川地域バス運営委員会)

⇒大江山地区では昨年地域の人達がどういった意識をもっているか、どういったニーズがあるかを知るためにアンケートを実施した。今後、各自治会長に結果内容を報告して、どういった対応ができるかなど検討する。(大江山地区バス運営委員会)

○「江南区生活交通改善プラン」での成果指標について

資料に基づき説明、意見交換を行った。

(横バス協議会)

・成果指標に区バス・住民バスの利用者数があるが、タクシーの事が出ていない。タクシーの利用実態はわかるのか。

⇒一般的にタクシーの乗客数はバスの乗車数の3分の1程度。(さくら交通)

⇒タクシー事業者は市内22事業者あり、毎月運送人員を報告しているが、乗車場所、降車場所までは抑えていない。抽出も簡単ではない。(新潟市ハイヤー・タクシー協会)

(新潟市ハイヤー・タクシー協会)

・公共交通空白不便地域の解消を目的とするのであれば、公共交通カバー率の上昇などを指標にするほうが良いのではないかと。また、利便性向上を目標とするのであればトリップ数に対する自家用車利用の減少ではないかという気がする。

⇒移動実態調査は、平成23年度と28年度に実施しているが、調査1回につき、相当な経費が必要。マイカー依存率は他都市と比較してもかなり高い状況なので、それをより低くする取り組みは重要だが、次回の調査時期や内容は今後の検討となる。今事務局で設定している区バス・住民バスの利用者数は確実に把握できる。確実になどころではこういった指標を掲げつつ、補足で分担率などの指標が設定できるかは我々含めて今後検討する必要があるかと考えている。また、空白域の解消というところで、「停留所から300m離れている」「鉄道駅から500m以上離れている」ところは公共交通空白域と定義し、空白域がどのくらいあるのかという数字はわかるので、指標として検討しても良いのかと考えている。(都市交通政策課)

(事務局)

・目標値の部分については、トリップ数だと、江南区だけに限らない部分も出てくるかと思う。本庁とも確認しながら最終的な指標を設定したい。また、公共交通の空白域の部分については、大きな基本方針として掲げているので、この空白地域を減らすことは大切だと認識している。この5年間で社会実験等をしてきた中で、公共交通を充実していくために一番大事なのは地域の熱意だと感じている。市が空白域を解消しようと策を練ってもそれが地域のニーズと合致していないと本格運行にはつながってこない。地域の皆さんと一緒にどういった形が適しているのかを探っていくことが必要になる。その中で、空白域が減ってくれば、結果として解消できましたと言えるのではないかと考えている。それらを含め最終的なプランをお示しする。